

内

輪では、とても盛り上がりを感じるようになってきたのだが、肝心の申し込みがさっぱりだった。あと一週間もすれば初回を迎えるという段階に至っても、予定通り二隻ずつ運行できるか危ぶまれた。チラシができるのも遅かったし、ちまちまと配れる範囲に渡していてもたかが知れている。広報がちつとも進んでないのは明らかだった。いつもの寄席なら客の入りなどさほど気にならないのだが、乗船料を当て込んだの事業となると、売れていないという現実は重くのしかかる。ジジババなら孫かわいさで乗ってくれるだろうから、と、こうなったら親族で船が固まるもやむなし、という話が出てきて、成績の上がらぬ営業マンのごとき重い気分になった。

こども寄席は、主催者の考えでいくばくかお礼をいただくことはあるが、基本的には無償だ。少なくとも商いではない。ところが「堀川ゆうれい船」は、乗船する大人もこどももみんなからお金を取るのだからりっぱな商いである。なんとなくそこは気になりながらも考えてこなかったのであるが、無料のもたらす良くも悪くもたれあう関係性を金で間に入れることでキリツと引き締められるはず。二千五百円に見合った内容が提供できなければ次がないというだけでなく、落語教室もたいしたことない、という風聞さえ生み出し

かねない。この種の緊張感は何度だとくたびれてしまうが、時々混ざるにはいいものだと思う。金で買うのは投票と同じで、支持表明だと何かで読んだが、確かに子どもたちの積極的な工夫は、支持を得んがために知恵を絞る選挙活動に似ている。

ジジババ頼みというのは、そんな機運に水を差すような気もして、ともかくぎりぎりまでがまんしようと思った。その矢先、堀川遊覧船の働きかけで報道関係者を事前に乗せるプレス船が出ることになった。一回は、新聞社や民放テレビ局を対象に、二回目はNHKテレビのために。いずれも初回と二回目の運行日の二日前というギリギリのタイミングだったが、放映後に申し込みがちょうどよい感じで入って、全四回とも無事に満席となった。新聞、テレビの力はやはり大きかった。

さて、四回に及んだ「堀川ゆうれい船」。子どもたちや保護者の達成感は大きなものがあったようで、びたつと時間通りにいったときは「ガッツポーズが出た」と言う人もあった。乗船者のアンケートを見た。価格設定は、「ちょうどよい」が最も多かった。「これより高くても乗る」もいくらかあったが、「高かったら乗らない」もそれなりにあった。初体験のドタバタを差し引いても、まあ及第点というところか。

2025.9.8

1505号(夕焼け通信 創刊1993.4.23)

〒690-0871 島根県松江市東奥谷町386-7 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

老い老いに 木幡智恵美

48



〇〇二年の夕焼け通信は四百十号から始まっている。紙面を飾ったのは、対話録『難民を生きる』、里みちこのことば遊び『感字在菩薩』、編集長の『続ド素人畑作日記』、そして私の『忘れられゆく言葉たち』だ。『難民を生きる』は、元アウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主党幹部で、軍事政権の弾圧を受けて来日、難民認定されたティン・ウインさんと高校二年生の長女ヘイマー・ティン・ウインさんの対談を記録したものだ。

以降の通信には、おなじみの顔ぶれに加え、T・HさんやA・Mさん、M・Aさんらが詩を寄せて下さり、この時期は結構詩が紙面を多く飾っている。『漫画道楽記』でおなじみのM・I氏は連載を終え、『人生の踊り場』という次の連載に入っていく。そして、大学生のP・Kさんが、神奈川県から若い感性でとらえた文章を送ってくれた。そうして迎えた四月、夕焼け通信は十年目に突入する。編集後記から。

「指を折って数えてみると、ついに十年目の春に突入したことになります。『いつまで続けるんだ』と聞かれた場合、編集人は『二十年』と答えることにしています。『いつまで十年続けば二十年続くかもしれない、という気になってきました。よく続くねえ、と感心されたり呆れられたりしますが、『読んでよ』のひと声さえあれば、なんぼでも続けられそうなんです」

夕焼け通信が始まった頃、我が二男坊は四歳児だった。それが十年後には中学生、長男は小学校入学したてから高校生に、長女は小学生から大学生になっている。それほど年数だ。世の中では通信技術がどんどん発展し、ウインドウズ95の出現により、パソコンを使いこなせる人が珍しかったのが、かなりの家庭に普及するようになった。パブルが崩壊し、経営破綻が相次ぎ、先行き不安な世の中になっていく。それまで考えられなかった事件が起きるようになった。わが国では地下鉄サリン事件、池田小学校児童殺傷事件や未成年による残酷な事件などなど。アメリカでは世界中を震撼させた同時多発テロ。そして、地球温暖化により世界各地で災害が起り、世紀末から新世紀を迎え、危機感がじわじわと押し寄せてきている。

30代フリーター 皇位継承の在り方をめぐってなされている主張は、どれも皇統の断絶の可能性を排除できない。天皇制はいつか廃止に追い込まれるのではないか。

年金生活者 その話をする前提として、いま天皇制がどうなっているか見とおそう。

先代の天皇（現上皇）の生前退位は、皇位の継承を天皇の死亡時に限定していた明治以来の制度を、天皇の存命中の譲位がたびたびあった江戸時代以前に部分的に逆戻りさせたことを意味する。

存命中の譲位が明治になって廃止されたのは、中央集権国家を築くのに必要だったからだ。譲位による上皇の誕生は二重権力を招く恐れがあるため、明治政府は終身在位が一般的な欧州の王制をモデルに皇位継承制度を設計したといわれる。

30代 戦後、天皇は新しい憲法で国政に関する権能を有しないとされ、前近代に近い状態に戻された。

られたということは、皇位の継承も政治的な意味を持ち続けたことを意味する。その在り方を、生前退位がありふれていた前近代にあと戻りさせた先代の天皇は、自らの政治的な力を自らの手で削いだ。それは天皇の代替わりをモデルにした自民党による疑似政権交代を無力化した。「石破おろし」に、かつてあった「三木おろし」などのような勢いが無いのは、そこにも原因がある。

30代 日本にはなぜ「王殺し」がなかったのか。

年金 殺害を象徴する儀式をもうけ、それに現実の殺害を代替させたからだ。皇位継承の祭儀である大嘗祭は天皇の死と新たな天皇の誕生を象徴する儀式として組み立てられている。

吉本隆明の『共同幻想論』によれば、この祭儀が行われる悠紀殿、および主基殿と呼ばれる殿舎で天皇はひとりの異性の神を迎え、食事を共にする。両方の殿舎には寝具が敷かれており、吉本はそれを「〈性〉行為の模擬

年金 それはみかけだけのことで、政治の領域に依然としてどまつている。国家という政治の主舞台を支える憲法の中に「象徴」として位置づけられ、中央集権国家を支える宗教的な支柱であり続けているからだ。

明治以降の皇位継承制度は、天皇の代替わりが政治化されたことを意味し、それは自民党の長期政権を目に見えないところで支え続けた。この党ができてスタートした55年体制は、政権交代を前提としないという、民主主義ではあり得ないシステムだった。自民党に対抗する日本社会党は改憲発議を阻むことのできる衆参両院の3分の1の議席を確保することを主目的にしていた。

失政があっても政権が代わらないことへの国民の不満を吸収するため、自民党は選挙で議席を減らすたびに総裁を交代させる疑似政権交代を繰り返した。これは天皇の代替わりを模したものであった。天皇が代わるだけで天皇制はかわらないように、総裁が代わるだ

的な表象であるとともになものかの〈死〉となにもものかの〈生誕〉を象徴するもの」と推定している。

30代 なぜ性行為が生誕だけでなく死と結びつくんだ。

年金 ウイリアム・R・クラークの『死はなぜ進化したか』によれば、有性生殖の最大の利点は、遺伝子の多様性を生み出し、環境変化に適応できる個体を生み出すことなのに、もし個体が死なずに生き続けたら、古い世代がいつまでも存在し続け、新しい遺伝子の組

けで自民党の統治はかわらない。それができたのは天皇の代替わりが政治化されていたからだ。

30代 日本の民主主義の特異性のひとつだ。

年金 近代の民主主義に必須の政権交代は、西欧の市民革命を非暴力化したものだ。そして市民革命のモデルはフレイザーが『金枝篇』で描いた原始社会の「王殺し」にさかのぼる。天災や疫病などの災厄が起きると、王の力が衰えたせいだと考え、王を殺して新しい王を据えた。

日本にはこの「王殺し」の風習の痕跡がほとんどない。日本に市民革命がなかったのは「王殺し」の風習がなかったからだ。明治維新が革命とみなされることはあるが、王が処刑されたフランス革命のように天皇が殺害されることはなかった。それどころか、逆に権威を高められて政治の舞台上に登場した。それは戦後も目に見えない形で引き継がれている。

天皇が戦後の憲法の中にも位置づけ

み合わせを持った子孫が環境に適応する機会が減るからだ。吉本のいうふたつの「なにもものか」は、退位ないし崩じた天皇と、新たに誕生する天皇を指していると考えても近似的には間違いないと思う。

吉本は悠紀殿、主基殿の天皇のもとを訪れる異性の神を、民族的な農耕祭儀で農耕民の家を訪れる田の神が抽象化されたものと考えた。

《天皇は〈抽象〉された〈田神〉のほうへ貌をむけるとともに、みずからの半顔を、〈抽象〉された〈田神〉の対幻想の対象である異性〈神〉として、農民のほうへむけるのである。祭儀が支配的な規範力に転化する秘密は、この二重化のなかにかくされている。なぜならば、農民たちがついに天皇を〈田神〉と錯覚することができる機構ができあがっているからである。》（『共同幻想論』）

この「機構」がその後の日本の支配構造を規定し、現在の民主主義の特異性を形成するものにもなっている。

ニュース日記 981
中村 礼治

天皇制民主主義のゆくえ（上）